

特集

コロナ禍で磨かれた「道」^{みち}の可能性

この約2年間でわれわれの生活様式は一変した。マスクが生活必需品となり、ソーシャルディスタンス確保が求められた。外出自粛により在宅勤務やリモート会議が日常的になり、出張は激減した。観光旅行に行くのも難しくなり、鉄道・空路・バスはその便数を減らした。学校の授業もオンラインで行われることが多くなり、修学旅行や運動会等の行事は延長や中止を余儀なくされた。夜の盛り場は営業自粛が求められ、外食機会が減る一方で、宅配サービスの利用が急増した。

そのような状況であっても、われわれの衣食住に必要なものは物流網を通じてスーパーやコンビニエンスストアに並び、また直接自宅に届けられた。また、屋内ではなく道路空間等の屋外で余暇を楽しむ場面が増えた。

このような現在の道内の状況を顧みて、「コロナ禍で磨かれた「道」の可能性」を特集のテーマとした。基調レポートとして、札幌国際大学 観光学部観光ビジネス学科 准教授 藤崎 達也 氏に、シェアリングサービスのプラットフォームとしての道路空間の可能性についてご寄稿いただいた。次に、多様な道路空間の使い方を後押しする「歩行者利便増進道路(ほこみち)制度」について、国土交通省 北海道開発局建設部 道路計画課 道路調査専門官 新井田 勇二 氏にご紹介いただいた。そして、株式会社セコマ 代表取締役会長 丸谷 智保 氏には、独自の物流網で北海道内のほとんどの市町村にコンビニエンスストアを出店する中で、生産空間の維持・発展に向けた道路ネットワークへの期待などについてお話を伺った。

新型コロナウイルス感染症の拡大を経たニューノーマル時代において、道路空間の新たな使い方、道路ネットワークの重要性の再認識していただけると幸いです。

基調レポート

シェアリングエコノミーのプラットフォームとしての道の可能性 キッチンバスを活用した学生イベントを通しての実証

札幌国際大学 観光学部観光ビジネス学科 准教授 藤崎 達也 氏

レポート

コロナ占用特例が後押しに。歩行者利便増進道路(ほこみち)制度

国土交通省 北海道開発局建設部道路計画課 道路調査専門官 新井田 勇二 氏

インタビュー

北海道の基幹産業を支える生産空間。 その生活を守る "道民のコンビニエンスストア"

株式会社 セコマ 代表取締役会長 丸谷 智保 氏

